

# 常滑市病院事業改革プラン 点検・評価報告書

〈点検・評価対象：平成30年度〉

令和元年 12月

常滑市病院事業改革プラン評価委員会

## 目 次

	ページ
I 点検・評価にあたって	1
II 評価総括	2
III 改革プラン評価表(平成 30 年度)	4
平成 30 年度における主な活動状況報告	7
資 料	
1 改革プラン参考資料【掲載省略】	15
① 収益的収支	
② 資本的収支	
③ 経営指標	
④ 経営改善の推移について	
⑤ 平成 30 年度 愛知県公立病院 医業損益率	
⑥ 診療科別医業収益 年度推移他	
⑦ (月次)経営状況報告・分析資料	
⑧ 平成 30 年度決算から見た損益分岐分析	
2 評価委員会設置要綱・委員名簿	16

## I 点検・評価にあたって

常滑市民病院は昭和 34 年 5 月に一般病床 132 床と結核病床 56 床を合わせた 188 床・8 診療科の総合病院として開院し、その後、平成 27 年 5 月に新築移転し、現在では一般病床 267 床・25 診療科で地域の中核的病院として地域医療を担っています。また、救急告示病院として救急医療を実施し、まさに市内の唯一の病院として市民にとってなくてはならない存在です。

しかし、人口減少や少子高齢化が急速に進展する中で、医療需要が大きく変化することが見込まれており、地域ごとに適切な医療提供体制の再構築に取り組んでいくことがますます必要とされています。

こうした状況を踏まえ、国は、公立病院が必要な医療機能を整備するとともに、経営の効率化を図り、持続可能な病院経営を目指していくために「新公立病院改革ガイドライン」を策定しました。常滑市民病院においても、これに基づき、平成 29 年 3 月に『常滑市病院事業改革プラン』（以下「改革プラン」という。）を策定し、改革に取り組んできています。

常滑市病院事業改革プラン評価委員会は、第三者機関として改革プランの点検・評価を毎年度行うため、平成 30 年 10 月に設置されました。そして平成 30 年 12 月に初年度の評価委員会が開催されました。今回は改革プラン 2 年度目の平成 30 年度の取り組みについて、現状分析に始まり、評価を行い、経営改善策に対する具体的な提言を行いましたので、ここに報告します。短い時間ではありましたが、委員の皆さんの真摯な議論によって密度の濃い点検と評価ができたと思います。なお、今回の評価が今後具体的な成果として現れることを期待します。

最後に、大変厳しい経営状況ではありますが、さらに一層の経営改善を図り、常滑市民病院が引続き「市民の命と健康を守る地域医療の拠点病院」としての役割を果たしていただくよう強く望みます。

常滑市病院事業改革プラン評価委員会  
委員長 須知 雅史

## II 評価総括

改革プラン2年度目として、様々な経営改善に取り組んでいることは評価できるが、医業収益の入院収益などの項目、そして医業費用の給与費などの項目において計画未達が見られるため、その改善に引き続き取り組んでいただきたい。

以下、ガイドラインに掲げる4つの視点に沿って提言する。

### 1. 地域医療構想を踏まえた役割の明確化

- (1) 念願の新病院の検討から完成を経て、また半田病院の移転建替に向けて、知多半島医療圏における常滑市民病院の役割は一層明確になってきている。その最大限の実現を目指し、地域関係機関との協議を進めることが不可欠である。その中で、特長を持った分野を更に強化するなど様々な施策を実行することが求められる。

現在でも地域包括ケアシステムの中で、地域関係機関との連携を深め、また市民の健康づくりに努めるなど、様々な活動が常滑市民病院の最大の特長であり、魅力となっている。今後は、常滑市民病院の役割に対する質的評価を得るための「関係者満足度・信頼度調査（患者、地域の医療・介護関係者、職員に対するアンケート調査など）」を行い、指標を設定し改善していくことが望ましい。

そして、改革プランに沿って、救急対応や災害対策を更に進めるとともに、市民が安心して常滑市民病院で治療が受けられ、入院から退院後の生活までをシームレスにケアを繋げていく努力を今後も続けていただきたい。

### 2. 再編・ネットワーク化

- (1) 半田病院との診療統合及び経営統合の検討を進める中で、知多半島医療圏、特に中南部地域における他の病院との、より実質的な連携強化（人、物、情報など多面的な連携強化）も検討していくことが必要である。

### 3. 経営の効率化

- (1) 常滑市唯一の病院として多様なニーズに応え、また経営を改善するためにも、常勤医師の確保が最大の課題である。後期研修医の確保を含めて、様々な方法を駆使して、引き続き常勤医師確保に努めていただきたい。
- (2) 地元医療機関に対する逆紹介率の向上に努めることで信頼関係をより強化して、結果的に紹介率の向上、更には入院診療及び専門的治療の充実に繋げていく努力が必要である。

- (3) 赤字体質脱却のために、医師を始めとする職員の一層の経営意識向上を図り、給与費の増加抑制を含め、医業費用の削減に努めるべきである。
- (4) 常滑市からの繰入金は、繰入基準内の8億円であるが、今後も基準内に収まるよう経営努力を続けていただきたい。
- (5) 加えて、新たに始まったHCU（ハイケアユニット）の加算取得や、今後の成長戦略としての「婦人科不妊治療センター」の検討などを進めていただきたい。

#### 4. 経営形態の見直し

- (1) 半田病院との経営統合を検討する中で、地方独立行政法人（非公務員型）への移行を、関係機関と協議しながら進めていくことが望ましい。

### Ⅲ 改革プラン評価表（平成30年度）

評価基準  
 A：予定通り進んでいる  
 B：十分でないが成果はあがっている  
 C：ほとんど成果があがっていない  
 D：特殊な要因で評価できない

評価集計 A:11 B:18 C:1 D:0 合計30

#### 1. 地域医療構想を踏まえた役割(改革プランP29～) (費用は抑制を評価)

内容	単位	H30計画	H30実績	(達成率)	取組実績・成果	評価	主な意見
(1)医療機能等指標に係る目標数値(P38)							
①救急患者数	人	12,000	12,096	101%	極暑の影響で8月大幅増加	A	
②手術件数	件	1,600	1,387	87%	眼科医師、消化器内科の医師減少	B	
③紹介率	%	51.9	48.0	92%	開業医との関係強化に努めるがまだ不十分	B	
④逆紹介率	%	33.8	35.8	106%	一時的な件数増加があった(開業予定医師の自院への紹介)	B	
⑤回復期リハビリ単位数	単位	78,595	63,631	81%	脳外科及び整形外科の退職予定に向けた減少の影響	B	

#### 2. 一般会計負担(改革プランP46～) (費用は抑制を評価)

内容	単位	H30計画	H30実績	(達成率)	取組実績・成果	評価	主な意見
(1)一般会計操出金の実績							
①基準内操出金	千円	800,000	800,000	100%	救急医療確保経費、高度医療経費 病院建設改良企業債元利償還金など	A	
②基準外操出金	千円	0	0	#DIV/0!		A	

3. 経営の効率化に係る計画(改革プランP41～) (費用は抑制を評価)

内容	単位	H30計画	H30実績	取組実績・成果		評価	主な意見
				(達成率)			
(1) 収支改善に係る指標							
① 経常収支比率	%	98.4	92.9	94%	入院収益の減少と給与費の増加	B	
② 医業収支比率	%	96.6	90.2	93%		B	
(2) 経費抑制に係る指標							
① 材料費対 医業収益率	%	18.6	18.5	101%	SPD活用による価格削減活動	A	
② うち薬品費対 医業収益率	%	12.8	12.2	105%	後発薬品の利用率向上	A	
(3) 収入確保に係る指標							
① 1日あたり 入院患者数	人	236	219	93%	眼科、内分泌内科の医師退職など	B	医師確保による患者数増加に努める こと
② 入院単価(調定額) (内訳: 但し稼働額ベース) 急性期病床 回復期病床 地域包括ケア病床	円	44,207	43,538	98%	外科、呼吸器内科、血液内科などで増加したが小児科などは減少	B	
③ 1日あたり 外来患者数	人	620	593	96%	眼科、内分泌内科の医師退職など	B	
④ 外来単価	円	12,414	12,795	103%	呼吸器内科、神経内科など増加	A	
⑤ DPC 医療機関別係数		1,2673	1,3286	105%	H30年度からDPC導入、加算係数増加	A	
(4) 経営の安定性に係る指標							
① 医師数(4.1 現在)	人	40	39	98%	H30.10.1=36 年度途中退職発生 (消化器内科、呼吸器内科、放射線科)	B	改革プランの実現に向けて引き続き、 医師確保に努めること

4. 収支計画(改革プランP48)

(費用は抑制を評価)

内容	単位	H30計画	H30実績	取組実績・成果		評価	主な意見
				(達成率)			
(1) 収益的収支							
① 医業収益	百万円	6,240	5,855	94%		B	
② 入院収益	百万円	3,808	3,477	91%	患者数、単価ともに未達(前述参照)	B	
③ 外来収益	百万円	1,878	1,851	99%	患者数未達、単価増加(前述参照)	B	
④ その他収益 (主な内訳) 室料差額収益 健診 他会計負担金	百万円	554	527	95%		B	
	百万円		135		入院患者数減少に伴い低迷		
	百万円		130		事業伸長(対前年度11%増加)		
	百万円		164		予定通り		
⑤ 医業費用	百万円	6,461	6,491	100%	給与費以外低減	B	
⑥ 職員給与費	百万円	3,498	3,694	95%	医師、看護師をサポートする職員数増加	C	
⑦ 材料費	百万円	1,161	1,083	107%	前述参照	A	
⑧ 経費	百万円	1,063	1,025	104%	委託費、賃借料、光熱水費などの増加抑制努力	A	
⑨ 減価償却費	百万円	720	669	108%		A	
⑩ 病床利用率 (内訳) 急性期病床 回復期病床 地域包括ケア病床	%	88.4	81.9	93%	常勤医師減少などに伴い未達 (眼科、内分泌内科など)	B	病床利用率を向上させるために、適正なベッドコントロールを目指すこと
(2) 資本的収支							
① 収入: 企業債	百万円	0	75	#DIV/0!		B	
② 支出: 建設改良費	百万円	9	122	7%	婦人科、特定感染病床機器等増加	B	
③ 支出: 企業債償還金	百万円	613	613	100%		A	



# 平成30年度における主な活動状況報告

## 1 地域医療構想を踏まえて当院の役割を果たしています

### ①常滑市民が安心して受診できる病院

常滑市唯一の入院施設を持つ病院であり2次救急医療機関として、急性期医療を主体としつつ、**ケアミックス型**の病院として回復期医療などにも取り組む役割を果たしてきました。(評価シート参照)

### ②市保健センターとの連携の活性化

全国的にも珍しい、市の保健センターを併設している医療機関として、行政との連携を密に行い、住民に対して予防から医療までの円滑なサービスを提供してきました。

常滑市民病院（看護局）と市保健センター（健康推進課）との合同会議

平成30年度 1回開催

平成30年 4月18日（水）

当院が主催する健康教室に、保健センターの保健師を講師として招いたり、逆に、保健センター主催の各種会議に当院の医師が積極的に参加したりと、双方向に交流を深めてきました。(後述参照)

### ③災害拠点病院との連携

当院は、海岸から離れた海拔32メートルの高台に位置し、最新の**災害対応機能**を具備しているため、災害時には**災害連携病院**として、知多半島医療圏内の**災害拠点病院**を補完する機能を果たし、知多半島医療圏の中で最大規模の施設を備えた人工透析医療については、拠点病院としての役割を果たすことが求められており各種訓練にも参加しています。

知多半島透析連携会（半島内の病院、診療所参加）

患者データ交換、マニュアル意見交換、トランシーバーチェックなど

平成30年度は半田病院において年3回開催

平成30年 9月10日(月)

平成30年12月17日(月)

平成31年 2月18日(月)

平成30年度の院内災害訓練

平成30年度前期消防訓練（昼間想定）

平成30年9月14日（金）消防、避難誘導、情報伝達

平成30年度後期消防訓練（県防災ヘリによる患者救助訓練）

平成31年2月14日（木）地震・情報伝達・消防・避難誘導

また、災害時に備えて、定期的に**広域災害救急医療情報システム**の机上訓練を他の医療機関と合同で実施しました。

平成30年10月15日(月) 西知多総合病院において実施

#### ④特定感染症指定医療機関としての受入体制強化

平成28年1月4日、厚生労働大臣より国内4番目となる**特定感染症指定医療機関**の指定を受けて以来、未知の感染症の蔓延を水際で防ぐ役割を担ってきています。

特定感染症患者の搬送・受入訓練については、中部国際空港検疫所などと相互の連携を深めるとともに、特定感染病床での感染症患者対応の訓練も同時に行いました。

平成30年度 特定感染症患者搬送受入訓練

平成30年11月 2日(金) 空港検疫所と合同訓練  
(1名搬送)

平成31年 1月11日(金) 空港検疫所と合同訓練  
(2名同時搬送)

#### ⑤地元在住職員のメリットを活かす

当院は常滑市在住者が多いことから、地元密着型の病院として、緊急対応力及び災害対応力に加え、雇用創出力、購買力、納税力の役割も担ってきています。特に若い医師の常滑市在住者が増加し、時間外の呼び出し対応力も向上しています。

#### ⑥愛知県地域保健医療計画の推進

愛知県が新たに見直し、策定した「愛知県地域保健医療計画(平成30年度～平成36年度)」に沿って、救急医療対策、在宅医療対策、災害医療対策、医療機関相互連携、医療提供施設(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、感染症等)の整備を進めることにより、知多半島医療圏の第2次救急医療機関としてその役割を果たしております。

## 2. 地域包括ケアシステムの構築に向けて役割を果たしています

### (1) 当院が進める地域包括ケアシステムについて

当院では、常滑市が進める「地域包括ケアシステム」において、「医療」の役割の中心を担っています。

特に、改革プラン策定後、地域包括ケアシステムの活動が活発化しており、認定看護師などの病院職員が地域に出向く「アウトリーチ活動」が本格化しています。

- a. 地域ケア会議(市の北中部・南部ともに年2回ずつ開催)、  
地域ケア個別会議(毎月、市の北中部・南部にて開催)への参画  
市内の地域包括支援センター主催で多職種、高齢者サポートセンター民生委員及び企業他(コンビニ、消防、警察、司法書士など)、  
並びに地域住民も含め地域の課題を話し合い

- b. 地域住民むけの出前講座（地域サロン、認知症地域カフェ）への参加

平成30年度 56回（参加延人数1,334名）

- c. 地域で働く多職種スタッフ向けの出前講座の開催

平成30年度 19回（参加延人数355名）

### ①病床機能分化の推進

常滑市民病院では、回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病棟を整備・運用するとともに、地域包括ケアシステムの構築に向けて更に活用するために、平成30年2月に院内組織として「患者サポートセンター」を立ち上げ、地域連携機能、患者相談機能及び入退院支援機能の一体化を実現しました。

### ②訪問看護事業の充実

訪問看護事業を充実させるため、平成30年2月に、訪問看護ステーション「きずな」を立ち上げ、地域のニーズに応じた在宅医療サポート機能の充実を図っています。

## （2）市民の健康づくりの推進

常滑市の第5次常滑市総合計画の重点プロジェクト2に掲げる「地域住民の連携による健康づくり」を目指して、市民病院として、病気や怪我の治療はもちろんのこと、病気や怪我の予防についても積極的に貢献してきました。

「コミュニケーション日本一」を基本理念に掲げる本院にとって、地域住民との交流は欠かせないため、スタッフ一同、広く市民の方々が参加できる様々な活動を推進し、地域住民の健康をサポートしてきました。

### ①健康ひろめ隊（出張健康チェック・出張健康相談）による地域貢献活動

当院では、地域に“健康を広めたい”という思いから、看護師が中心になって、様々な市内のイベントに健康ひろめ隊を出動させ、地域住民の健康相談に対し、適切なアドバイスをを行い、地域とのコミュニケーションを図っています。

表3-13のとおり、平成30年度では、常滑焼まつり、常滑市農業まつり、子育て支援フェスタ、常夏フェスティバルなどに出向いて活動しました。今後も、地域のイベントに積極的に参加し、活動を継続していきます。

表 3-13 平成 30 年度 健康ひろめ隊 活動実績

	活動日	イベント名称	病院スタッフ数	健康チェック者数
1	4月7日(土)	八百姫まつり	9名	11名
2	4月22日(日)	常滑市民病院 病院祭	30名	120名
3	5月19日(土)	子育て支援フェスタ	16名	99名
4	8月18日(日)	常夏フェスティバル	10名	6名
5	9月9日(日)	防災フェスタ	22名	75名
6	10月20日(土)	しろやまフェスタ	19名	36名
7	10月13日(土)	常滑焼まつり	46名	181名
8	12月3日(日)	常滑市農業まつり	61名	162名
		合計	213名	580名

## ②市民公開講座の実施

表 3-14 のとおり、平成 30 年度では、広く市民に健康増進を図り、医療体制の仕組みを理解してもらうために市民公開講座を 2 度実施しました。2 つの講座には、合計 590 名の来場者があり、市民の健康への関心の高さを実感しました。

表 3-14 平成 30 年度 市民公開講座 開催実績

	開催日	テーマ	参加スタッフ数	来場者数
1	9月9日(日)	慢性腎臓病について	30名	270名
2	12月9日(日)	地域包括ケアシステム(ACP)について	50名	320名
		合計	80名	590名

## ③健康教室の実施

表 3-15 のとおり、院内の健康教室は、糖尿病教室、慢性腎臓病教室、骨太教室など、病気の予防に役立つテーマを題材に実施しました。

表 3-15 平成 30 年度 健康教室 開催実績

	健康教室	開催スケジュール	病院スタッフ数	参加者数
1	糖尿病教室	月 1 回×6 か月×2 クール	12名	157名
2	慢性腎臓病教室	月 1 回×6 か月×2 クール	12名	279名
3	骨太教室	月 1 回×3 か月×3 クール	10名	57名

### (3) 地域住民に親しまれる病院を目指した取り組み

病院長が掲げる「職員が誇りに思い、市民が自慢できる病院」となるためには、地域住民に認められ、親しまれる病院作りを地域住民と共に目指して、当院では、地域の方々が積極的に当院の運営に参加できる仕組み作りとして、次のような取り組みを行いました。

#### ①病院ボランティアによる活動

新病院開院後も病院を支えたいという方々の意向もあり、地域住民により病院ボランティアが結成されました（平成31年3月現在登録者数120名ほど）。

新病院開院後、4年を経過し、表3-16のとおり、様々な病院ボランティアの活動によって病院が支えられております。

表 3-16 ボランティア活動の状況（重複登録者を含む。）

活動名	活動内容	活動日時	登録者数
院内案内	正面ロータリーにて、車椅子患者の送迎介助、エントランスでの院内案内、自動精算機、再来院受付機の案内	平日 8:30～11:30	20名
イベント	患者向け・ボランティア同士の交流イベントや病院祭などのイベントの企画運営	第1月曜日 13:30、 イベント開催日	15名
植栽管理	病院の周りの草取り、植栽管理	第1・3日曜日 7:00～9:00	35名
お話し会	入院患者向けの絵本や紙芝居、詩の朗読や民謡の合唱	第3水曜日 15:00	18名

※その他、個人活動ボランティアとして、「エントランスホールでの生け花の展示」「入院患者向けレクリエーション（折り紙）」「包帯巻き」「裁縫」「入院患者の理髪」などのボランティア登録者34名（重複登録あり）。

#### ②病院祭の開催

地域住民への感謝の気持ちを込めて、病院開設記念日（5月1日）前後である4月22日に病院祭を開催しました。病院祭では、職員が食品模擬店やバザー、手術センター見学ツアーなどを企画・実行し、病院ボランティアが病院エントランスホールにステージを設けて、ミニコンサート、小中学生の吹奏楽、キッズダンスなど地域住民参加型のイベントを数多く実施しました。地域住民の方々も、年に1度の病院祭を楽しみにしており、当日は多数の方々が訪れ、好評をいただいています。

#### ③地域住民への病院施設の開放

新興住宅が数多く建ち並ぶ市民病院の周辺の地域住民にも利用してもらえるように、100人収容の「とこなめホール」を地域住民の町内活動のために提供しており、19回の利用がありました。

また、8月5日に開催した「北条区 ふれあい大会・盆踊り大会」では、周辺の地域住民が主体となって行うイベントの会場として当院の駐車場を提供しました。

## 2. 目標達成に向けた取り組み

### (1) 収入増加・確保対策

#### ①患者数の増加

ア. 常勤医師は思うように増加せず、入院収益の増加と**代務医師**費用の削減を図ることはできませんでした。

イ. **クリニカルパス**を導入することで、入院患者の在院日数短縮を図り、在院日数は8日台を維持しています。

ウ. 病院独自のツール（「**つなぐシート**」）などを活用して入院患者の退院支援について、計画的に進めました。

エ. **登録医制度**を推進し、**開放型病床**や**在宅療養後方支援病床**を整備し、地域の診療所との連携を強化し、**紹介率・逆紹介率**を向上させることを図りましたが、まだ目立った成果は出ていません。

#### ②診療単価の向上

**DPC 病院**として、**DPC 機能評価係数 I・II**の増加を目指して、多職種協働で加算の最大限確保に取り組み、診療単価向上を目指しました。特に、後発医薬品指数は98%前後、保険診療指数（部位不明・詳細不明コード）は10%以下を達成し、その結果、機能評価係数IIは0.0208増（月あたり約250万円増）となりました。

#### ③診療報酬の確保

ア. 平成30年度の診療報酬改定の内容と方向をしっかりと見極め、平成30年2月に患者サポートセンターと訪問看護ステーションを同時に立ち上げることにより、収入増加を実現しました。

イ. 看護学生の実習受け入れを積極的に行うことで、看護師、**看護助手**を安定的に確保するようにして、安定した病棟運営を図りました。平成30年度に受け入れた看護学生の実習生は254人でした。

また、体制加算を取得することで、収益増加を図りました。

ウ. 診療収益増加につながる多職種チームを編成し、その育成を行いました。既に先駆的に実施し、多職種が活用している病室内の「**電子ピクトグラム**」の更なる有効活用を図りました。

## (2) 経費削減・抑制対策

### ①材料費の抑制

ア. **後発医薬品**の使用割合を高めることで、薬品費の抑制及び収益の確保を図りました。

### ②経費の削減

ア. 新病院開院後、3年間、**エネルギーマネジメント協議会**を開催し、エネルギーの使用状況を把握することで、光熱水費の削減に努めてきましたが、以下を最終回として終了しましたので、その成果を生かして、光熱水費の維持・削減に継続しました。

平成30年度の常滑市民病院エネルギーマネジメント協議会

第12回 平成30年5月22日(火) 15:00~17:00

場所：常滑市民病院 ところなめホール

協議会員：常滑市民病院(院長、山田副市長、看護局長他)

東邦ガスエンジニアリング、名古屋大学、日建設計

イ. 医療機器の保守委託については、長期契約により提供業者を安心させ機能が停滞することのないように、スタッフのノウハウ蓄積を図って短期の契約と入札をこまめに行い、また、他病院の事例情報を積極的に活用することで費用の抑制を図りました。

## (5) その他

### ①患者満足度の向上

ア. 病院長の、「患者と顔の見える関係を築きたい。」という意向から、毎週、病院長による病棟回診を行っています。

イ. **アメニティ接遇向上委員会**を中心として、職員の接遇を向上させる活動を計画・実施することで、患者満足度を更に高めることを目指しています。委員会活動の一環として、「入院患者満足度アンケート」「外来患者満足度アンケート」を実施し、病院環境や病院スタッフの接遇に対する評価をしてもらい、患者サービス向上に努めました。

ウ. 外来待受けモニターへの広告・広報を掲載することで、外来の待ち時間を快適に過ごせるようにしました。

エ. **まもなくコール**を周知し、外来待ち時間を有効利用してもらえるように努めています。

オ. 退院した患者のフォローアップとして、外来看護師による在宅療養支援の取組をシステム化した「With You シート」及び「在宅療養支援フローチャート」により、患者及び家族に対する実効的な医療サービス向上を目指しています。

## ②職員満足度の向上

ア. 職員間のコミュニケーションを図り、働くことへのモチベーション向上に努めるために、平成29年9月から開始した「サンクススマイル活動」を推進し、職員同士がメッセージカードで感謝（サンクス）の気持ちを笑顔（スマイル）で伝え合う取り組みをおこなっています。

各職場における職員同士のメッセージカードは、定期的に2階の職員コミュニケーション・ラウンジに掲示・公開し、また多くのカードを送った人、送られた人には、半年毎に朝礼で、院長から表彰状と記念品の授与が行われています。



1 改革プラン参考資料  
【掲載省略】

## 常滑市病院事業改革プラン評価委員会設置要綱

### (設置)

第1条 常滑市病院事業改革プラン（以下「改革プラン」という。）の点検、評価を行うため、常滑市病院事業改革プラン評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

### (所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌するものとする。

- (1) 改革プランの実施状況の点検、評価に関すること。
- (2) 改革プランの見直しの必要性又は見直すべき事項に関すること。
- (3) その他改革プランに関すること。

### (組織)

第3条 委員会は、委員6名以内で組織する。

2 委員会の委員は、次に掲げる者のうちから常滑市病院事業管理者（以下「管理者」という。）が委嘱する。

- (1) 医療関係者
- (2) 学識経験者
- (3) 企業会計に関する知識、経験を有する者
- (4) 市民の意見を反映させるために管理者が必要と認めた者

3 委員会に、委員長及び副委員長を各1名置く。

4 委員長は、委員の互選により選出し、副委員長は委員長が指名する。

5 委員長は、会務を総理する。

6 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

### (任期)

第4条 委員の任期は、第2条に規定する任務が終了するまでとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員長は、必要に応じ、委員以外の出席を求め、意見を聴取し、又は必要な資料等の提出を求めることができる。

3 委員長は、会議の結果を管理者に報告し、公表するものとする。

### (庶務)

第6条 委員会の庶務は、常滑市民病院事務局管理課において処理する。

### (その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って別に定める。

### 附 則

この要綱は、平成30年10月1日から施行する。

## 病院事業改革プラン評価委員会委員

要綱第2条	所属	氏名
医療関係者	知多郡医師会常滑市医師団代表	須知雅史
医療関係者	半田市立半田病院長	石田義博
医療関係者	社会医療法人 財団新和会理事長 八千代病院長	弥政晋輔
学識経験者	日本福祉大学大学院客員教授(医療・福祉経営)	中島明彦
	前日本福祉大学大学院教授 元社会医療法人名古屋記念財団常務理事・事務局 局長	
企業会計知識・経験者	井上富郎税理士事務所税理士 元常滑市監査委員	井上富郎
市民意見反映者	常滑市民病院を応援する会副会長 常滑市民病院ボランティア 元みんなで創ろう 新常滑市民病院 100 人会 議メンバー	片山涼子

## 執行部

役職 1	役職 2	氏名
常滑市民病院長	常滑市病院事業管理者	深田伸二
常滑市民病院副院長	常滑市病院事業副管理者	野崎裕広
常滑市副市長	常滑市病院事業副管理者	山田朝夫
常滑市民病院事務局長	常滑市民病院事務局医事課長、 栄養管理室長	小羽正昭
常滑市民病院看護局長		久米淳子
常滑市民病院事務局経営企画室長	常滑市病院事業副管理者	山本秀明
常滑市民病院事務局経営企画室室長補 佐	常滑市民病院事務局管理課課 長補佐	堂本大輔